

1. 事業目標達成状況の評価年月日		平成28年6月30日				
2. 地区名		わじま 輪島地区				
3. 評価者		輪島市				
4. 事業目標達成状況の評価					(上段):計画 下段:実績	
事業 目標	指標		事業前	平成26年度	平成27年度	備考
	入り込み客数(年間) (人)		470,000	(480,000) 538,000	(490,000) 675,000	
	特産品販売額(年間) (万円)		3,600	(3,800) 3,647	(4,000) 5,440	
本交付金 の評価	平成26 年度	農村資源保 全推進対策	<p>農業資源の持続的保全のための、農産物ブランド化として、輪島市内9業者により、能登輪島米物語協議会を設立。 9業者の個別米を1つの商品として同包パッケージ箱を制作し、ブランド化を図った。この結果、ブランド力向上と、地域間、事業主間の連携が深まった。 また、白米千枚田の景観保全活動及び魅力発信を積極的に行うため、専用サイトを構築した。フェイスブックなどと連携して新たな客層の掘り起こしを図った結果、開設から1年間で延べ9万人が閲覧、490,000ページビューと多くの人々が興味を持っていることが明らかとなった。</p>			
	平成27 年度	農村資源保 全推進対策	<p>地域における農林業の副業化(多業化)の可能性を探るため、インターンシップを活用し、「生業カレンダー」の制作を実施。この生業カレンダー制作に関し、地域住民、都市部のインターン生との連携が図られたことにより、新たな担い手づくりの可能性が見えている。(インターン生3名のうち2名が移住予定)</p> <p>また、平成26年度実施の能登輪島米物語協議会による統一ブランド「能登輪島米物語」を中心とした、米をブランド化するためのワークショップ等を実施する中で、米だけではなく、地域の産物をセット販売する手法が地域のPRにつながることを有効であることが確認された。 さらに首都圏の各種イベントで購買層から商品に対する意見を直に意見を聞いたことは、よりニーズに合った構成にするための貴重な判断材料となった。</p> <p>白米千枚田関連では今後の周遊マップ作成や地権者、オーナー管理に必要な現況の航空写真撮影及び白地区を作成し、電子化に耐えうる高精度のものが完成した。また、商標登録した「日本農業の聖地」のロゴマークを作成し、現地で販売する商品等に付け、さらなる価値を付加し他の類似品との差別化を図っている。さらに副次的な効果としてその言われや白米千枚田の歴史について興味を持ってもらうこともできた。</p> <p>その他、交流人口の拡大を目指し新たな客層の掘り起こし(特に若年層)を行うため、白米千枚田を一生の思い出の地とする結婚式の参加者を募集し、多くの反響があった。 これら新たな千枚田の活用を目指す取り組みと同時に、当地での伝統的農法を映像で記録し、後世に残すべき資産として各所で紹介している。</p>			
事業全体 の評価	全体 総評	<p>本事業の実施にあたり、2年目には入り込み数で143.6%、販売額で151.1%と目標を高く上回る実績を残すことが出来た。ただし、これらは北陸新幹線金沢開業やNHK連続テレビ小説放送の影響によるところも大きいと考えられ、本事業の効果については今後さらに注意深く見守ることが必要と思われる。</p>				

活動状況写真



輪島米物語推進協議会による検討会



能登輪島米物語 パッケージ箱作成



地域産品活用検討会



地域産品活用検討会



白米千枚田公式サイトトップ